

## 最強の盾を読んで

四組 今道周雄

かぼちゃと対陣した柳川大人が、下した結論が「冷たいかぼちゃは包丁で切っても切れないが、温めればすんなり切れる」ということであった。

これを読んでわたしも飛躍し、自民の総裁選に物申す。

いま自民党総裁選で候補者が様々な意見を述べている。皆安倍政権下で閣内にいた人やそれなりの位置を占めていた人々である。「所得倍増計画」などは噴飯ものだ。10年間で所得は減る一方だったのに、どうやったら所得が倍増できるのか。

外交防衛策についても「在日米軍を陸海空自衛隊が守っている」（石破氏）なぞと威勢がよい。ならば「台湾有事」になれば真っ先に自衛隊が中国と戦うのか。

1972年にニクソンが日本の頭越しに中国と国交正常化を果たし、台湾は中国の一部であると宣言し、台湾との国交を絶った。日本外交はこれに追従し、台湾行きの飛行機は羽田空港の片隅に追いやられ、乗客はこそこそと犯罪者でもあるかのように飛行機にのったものである。

今日本政府は毅然として台湾は中国の一部であると明言し、「台湾有事」などは存在しないと宣言するべきだ。

三國志の中で、宰相の資格は「忠」「直」「瓣」「明」「宥」「恕」「寛」「厚」と言っている。中国に対する姿勢で言えば、全候補が「忠」「直」を欠いている。

中国が覇権的な行動をするのが悪い、だから武力に訴えても事態を解決する、というのは間違っている。

相手は正に三國志の御本家だ。忠」「直」「瓣」「明」「宥」「恕」「寛」「厚」の精神で対話してはどうか。

(完)